

○ 持続可能な農林水産業の実現を目指し、GX・DXによる「みどりのイノベーション」及び「エシカル消費」、特定区域の設定等を通じて「みどり戦略実践産地」の創出を図る。

【作成主体】 徳島県及び県内全24市町村

【計画の主な目標】

- ・化学農薬使用量（リスク換算値）の低減 : 10%低減（R12）
- ・化学肥料使用量の低減 : 20%低減（R12）
- ・有機農業の面積拡大(耕地面積に占める割合) : 1.5%（R12）

【取組のポイント】

- ・資材調達、生産、加工・流通、消費の各過程で環境負荷の低減を図り、「徳島県版みどりの循環」の確立を図る
- ・DX等を活用した省力化技術・環境負荷低減技術の確立と普及により「みどりのイノベーション」の実現を推進
- ・「消費者庁新未来創造戦略本部」と連携し、エシカル消費等の消費者理解を促進

【特定区域】

<徳島市川内町>

微生物資材の活用や、ドローンを活用した農薬の局所施用により、れんこん栽培における化学肥料・農薬の使用を低減

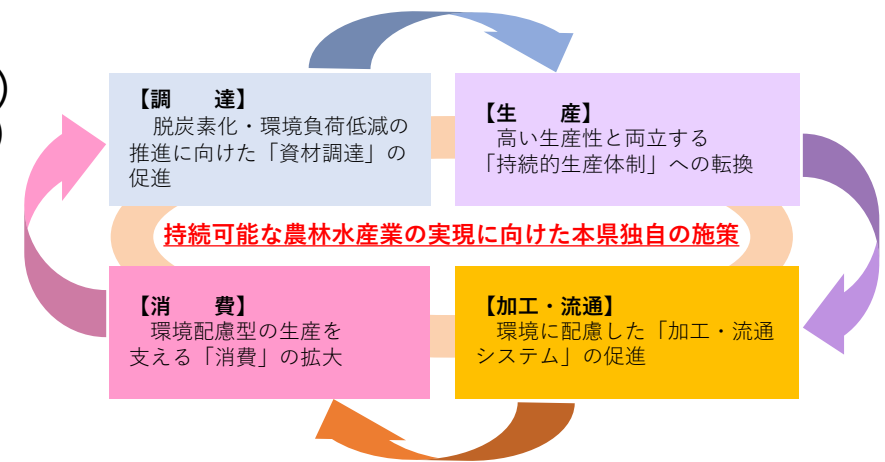
<小松島市田浦町、櫛漕町、立江町、坂野町、和田島町>

研修会の実施や学校給食への活用により水稻の有機農業の団地化を促進

<阿南市那賀川町、羽ノ浦町>

有機栽培マニュアル等を作成し、水稻を中心とする有機農業の団地化を促進

徳島県版みどりの循環



●エシカル農産物の販売コーナー

エシカル農業（「有機農業」「特別栽培」「エコファーマー」「GAP」）に代表される持続性の高い農業を支える消費の展開に向けた販売コーナーの設置風景。

<阿波市市場町、阿波町>

有機農業の経営規模拡大や「阿波市のいいものブランド」の創出等のブランディングにより有機農業の団地化を促進

<海陽町野江地区、高園地区>

複合耐病性品種の導入や先端技術の活用等による化学農薬の使用低減を図り、きゅうりの次世代栽培技術を確立・普及